

周産期疾病と四変部会

今年度、我々四変部会は前身である「四変情報交換会」から名称を変更して二年目の活動となります。平成八年当時、増加の一途を辿る第四胃変位（四変）に対して共済組合としてなんらかの活動をおこせないか、という掛け声のもとに四変情報交換会が発足しました。各診療所の発生状況を把握し、発生をいかに減らすかということで情報を持ち寄って現場にフィードバックさせていました。長い活動のなかで一定の成果を得、多くの情報を生産者に還元する事ができましたが、一方で四変の発生が劇的に減少したとは言い難い現状がありました。また、この間に生産者・獣医双方共に四変の発生に慣れてしまった感があり、実際には積極的に予防するよりも早期発見・早期処置に重きが置かれるようになってきたことも否めません。

そんな中、昨年度始めに四変情報交換会に代わり四変部会が立ち上がりました。四変部会では部会名に「四変」を掲げており、四変情報交換会からの引き継ぎもあるので当然四変の話題を扱いますが、四変ばかりに目を向けているといつの間にか深みにはまり込み、現場とかけ離れた活動になりかねません。四変の発生原因一つとってもその原因は多岐にわたり、どれか一つを抑えれば絶対に予防できるというものでもありません。そもそも四変とは何かと考えると、それは周産期疾病の一つの形である、と言えます。分娩後の乳牛に覆いかかる様々な危険因子が「四変」という一つの疾病になってカルテに記載される事になります。ではしばしば耳にする「周産期疾病」とは何かと言いますと、何か特定の疾病を表すわけではなく、分娩前から泌乳最盛期頃までの様々な疾病を総称したものです。それには栄養の出納バランスが崩れることによる「代謝病」、乳房炎や子宮炎に代表される「感染症」も含まれ、まとめて「生産病」と言われる事もあります。これらの一部は泌乳中期から後期に発生する事もありますが、ほとんどは周産期に集中しています。代謝病として具体的には脂肪肝、乳熱、ケトosis、肥満牛症候群、第四胃潰瘍あるいは変位、慢性第一胃アシドーシス、産褥性心筋症なども含まれます。これらの疾病は分娩後に発症することがほとんどですが、周産期とは「お産の周り」ということですから、疾病の下地が乾乳期にあることを忘れてはいけません。「繁殖障害」として扱われる疾病も分娩時の不調に起因することも多く、広義では周産期疾病に含まれる

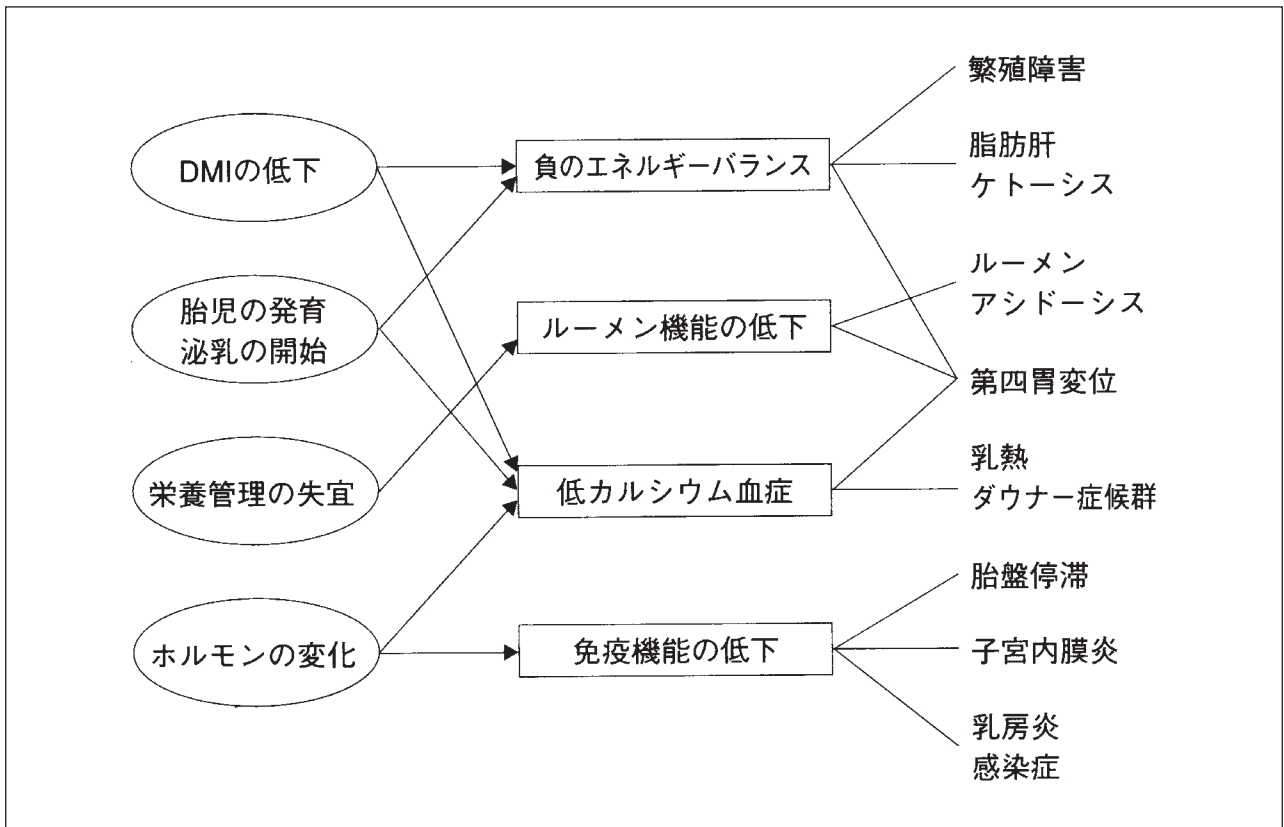


図1 周産期疾患の関係

ことになります。例えば胎盤停滯や産褥熱などは周産期疾病でありながら、その後の繁殖成績にもかかわってきます。乳房炎と繁殖障害に関してはそれぞれの専門部会に譲るとして、四変部会が扱うべき周産期疾病はこのように多岐にわたります。また、それぞれが独立した疾病として存在するのではなく、図1の様に多くの原因を共有している事が周産期疾病の特徴と言えます。つまり、分娩牛が四変になった、というのは目に見える一つの結果であって、その裏には分娩前の採食量の低下があり、分娩後の低カルシウム血症あるいは乳熱があり、エネルギー不足からくるケトーシスがあり、その結果として四変の発生があるということです。

今後、四変部会としては第四胃変位という疾病をメインテーマに掲げますが、実際には周産期疾病全般を範ちゅうと考えて活動していこうと考えています。かけはしへの寄稿に關しても一見四変と関係の無い話題も出てきますが、すべて四変部会の活動の範囲内と考えて下さい。

(音別白糠支所家畜診療課

鮎川 悠)